

マイマイガの生態と駆除方法について

1. マイマイガとは？

マイマイガはドクガ科に分類される蛾の一種で、日本をはじめ主に北半球に広く分布しています。

約10年周期で大量発生を繰り返し、幼虫は樹木や草木等への食害、成虫は強い不快感を感じる害虫として有名です。大量発生は1～3年程度で収束する傾向にありますが、大量発生メカニズムはよくわかっていません。

2. マイマイガの発生・生態

(1) 産卵と卵塊

成虫は7～8月に「卵塊」という形状の卵を産み付けます。卵塊は褐色で縦30～50mm×横20mm程度の楕円形で綿のようなものの中に100～1,000個程度の卵が入っています。

産卵場所は森林では幹の地上2～3m以下の部分に多く、特にシラカバなどの樹皮の白い木を好みます。ときには照明の支柱や電柱、建物の外壁や軒下などにも産み付け、こういった場所で多くの卵塊を見つけると大量発生の前触れのひとつと考えられます。



卵塊（職員撮影）

(2) 幼虫

幼虫は4～5月にふ化し、ふ化直後は体長5mm程度で卵塊の上や周辺に集団でとどまります。成長により様々な大きさ・色味をもちます。ふ化直後の1齢幼虫のみ、毒針毛をもっています。

高いところに登り糸を吐いてぶら下がり、糸で風に乗って広範囲を移動することから、別名ブランコ毛虫とも呼ばれています。

ふ化後は脱皮を繰り返し最大60～70mmまで成長した後さなぎとなり、7～8月には成虫になります。



ふ化直後の幼虫
（職員撮影）



成長した幼虫
（東北森林管理局）



終齢幼虫
※さなぎになる直前
（Wikipedia）

(3) 成虫

7～8月ごろにさなぎから羽化し、オスは体長20～50mm、メスは50mmから最大で100mm程度の蛾になります。オスは日中飛び回ることありますが、基本的には夜行性で光に集まる性質があり、夜の街頭や店先、明かりを反射する壁などに群がります。

成虫の生存期間は7～10日程度ですが、その間に次の世代の卵を産み付けます。成虫になってからは何も食わず、メスは産卵すると飛ばなくなります。



オス成虫（左）とメス成虫（右）（Wikipedia）

3. マイマイガによる被害は？

幼虫の毒針毛に触るとかぶれや皮膚の炎症などを引き起こします。

卵塊や成長した幼虫、さなぎ、蛾になった成虫に毒はありませんが、成虫の鱗粉などでアレルギー反応を起こすことがあります。

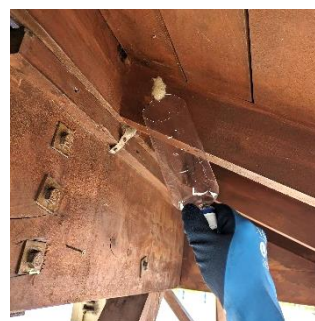
また、幼虫は主に樹木の葉を食害しますが、草木やイネ、大豆などの農作物を食害することもあります。

4. 駆除方法は？

成長するごとに薬剤への耐性が強くなり、密集しなくなるため、卵塊やふ化直後などの初期段階で駆除することが効果的です。駆除時には毒針毛や鱗粉に触らないよう、手袋や長袖の服ゴーグルを着用してください。

(1) 卵塊の除去

7月下旬以降あるいは春のふ化前の卵塊を除去し、焼却または埋却します。建物の外壁などに産み付けられた卵塊は、竹ぼうきや硬質のナイロンほうきでそぎ落とせますが、ペットボトルをへら代わりに使用すると除去しやすいです。高いところにある卵塊は高圧洗浄機で洗い落とす方法が有効です。



ペットボトルでの卵塊の駆除
（職員撮影）

(2) ふ化幼虫の駆除

少量の幼虫の場合は、粘着テープなどで張り取ります。外壁などに大量に付着している幼虫は市販の殺虫剤や殺虫成分入りの農薬を散布すると効果的です。

(3) 成長した幼虫の駆除

体長 20mm 以上に成長した幼虫には殺虫剤の効果は薄くなります。見つけしだい火ばさみなどで捕まえ、うすめた洗剤に沈めて駆除します。樹木の幹に布や麻布を巻き、幼虫を集めてまとめて駆除する方法もあります。

(4) 成虫の駆除

成虫になると殺虫剤はほぼ効果がなく、ほうきや殺虫ラケットなど物理的な打撃で駆除することになります。

駆除効率が落ちるため、電灯を紫外線発生 LED 灯や UV カット蛍光灯に替えるなど、寄せ付けないための対処が主になります。

(令和 7 年 7 月 市民生活課環境衛生係)